

#2
5/19/00
A.W.
Docket No. 21.1932/JHM

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:)
Yoshiki WATANABE)
Serial No.: TBA) Group Art Unit: TBA
Filed: March 7, 2000) Examiner: TBA



For: **SCHEDULE DISPLAY CONTROL DEVICE,
METHOD, AND RECORDING MEDIUM**

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN
APPLICATION IN ACCORDANCE
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. §1.55**

*Honorable Commissioner of
Patents and Trademarks
Washington, D.C. 20231*

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. §1.55, the applicant(s) submit(s)
herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 11-067429
Filed: March 12, 1999

It is respectfully requested that the applicants be given the benefit of the foreign filing
date as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements
of 35 U.S.C. §119.

Respectfully submitted,
STAAS & HALSEY LLP

Date: 3-7-2000

By: [Signature]
Jonathan H. Muskin
Registration No. 43,824

700 11th Street, N.W., Ste. 500
Washington, D.C. 20001
(202) 434-1500

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

Jc675 U.S. PTO
09/521448
03/07/00

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年 3月12日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第067429号

出 願 人

Applicant (s):

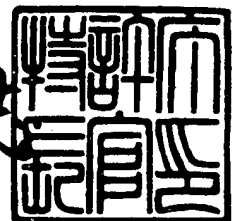
富士通株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1999年 6月18日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

山 建 志



出証番号 出証特平11-3043456

【書類名】 特許願

【整理番号】 9950007

【提出日】 平成11年 3月12日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 15/21

【発明の名称】 スケジュール表示制御装置、スケジュール表示制御方法
および記録媒体

【請求項の数】 12

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通
株式会社内

 【氏名】 渡辺 良樹

【特許出願人】

 【識別番号】 000005223

 【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100072590

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 井桁 貞一

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 011280

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9704486

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 スケジュール表示制御装置、スケジュール表示制御方法および記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 各表示単位毎のスケジュール量に基づきスケジュール表のレイアウトを制御するレイアウト制御手段と、

前記レイアウトのスケジュール表および該スケジュール表中の該当位置に対応するスケジュールの表示を制御する表示制御手段と、
を備えるスケジュール表示制御装置。

【請求項 2】 前記スケジュール表は行と列からなり、

前記レイアウト制御手段は、前記スケジュール量に応じた各行および／または各列の幅となるよう前記レイアウトを制御する請求項 1 記載のスケジュール表示制御装置。

【請求項 3】 前記スケジュール量は各行または各列におけるスケジュールの最大件数および／または最大の表示領域を要するスケジュールの表示内容量であり、

前記レイアウト制御手段は、前記最大件数の各スケジュールおよび／または前記最大表示領域を要するスケジュールが表示されるよう前記レイアウトを制御する請求項 2 記載のスケジュール表示制御装置。

【請求項 4】 前記表示制御手段は、前記スケジュール表および前記スケジュールの表示を制御するデータを他の処理手段で解釈可能なフォーマットのファイルに出力する請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載のスケジュール表示制御装置。

【請求項 5】 スケジュール表の表示を制御するスケジュール表示制御方法であって、

各表示単位毎のスケジュール量に基づきスケジュール表のレイアウトを制御するステップと、

前記レイアウトのスケジュール表および該スケジュール表中の該当位置に対応するスケジュールの表示を制御するステップと、
からなるスケジュール表示制御方法。

【請求項 6】 前記スケジュール表は行と列からなり、

前記スケジュール量に応じた各行および／または各列の幅となるよう前記レイアウトを制御するステップを含む請求項 5 記載のスケジュール表示制御装置。

【請求項 7】 前記スケジュール量は各行または各列におけるスケジュールの最大件数および／または最大の表示領域を要するスケジュールの表示内容量であり、

前記最大件数の各スケジュールおよび／または前記最大表示領域を要するスケジュールが表示されるよう前記レイアウトを制御するステップを含む請求項 6 記載のスケジュール表示制御方法。

【請求項 8】 前記スケジュール表および前記スケジュールの表示を制御するデータを他の処理手段で解釈可能なフォーマットのファイルに出力するステップを含む請求項 5 乃至 7 のいずれかに記載のスケジュール表示制御方法。

【請求項 9】 コンピュータに、

各表示単位毎のスケジュール量に基づきスケジュール表のレイアウトを制御するステップと、

前記レイアウトのスケジュール表および該スケジュール表中の該当位置に対応するスケジュールの表示を制御するステップと、
を実行させるスケジュール表示制御プログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

【請求項 1 0】 前記スケジュール表は行と列からなり、

前記スケジュール量に応じた各行および／または各列の幅となるよう前記レイアウトを制御するステップを実行させる前記スケジュール表示制御プログラムを記録した請求項 9 記載の記録媒体。

【請求項 1 1】 前記スケジュール量は各行または各列におけるスケジュールの最大件数および／または最大の表示領域を要するスケジュールの表示内容量であり、

前記最大件数の各スケジュールおよび／または前記最大表示領域を要するスケジュールが表示されるよう前記レイアウトを制御するステップを実行させる前記スケジュール表示制御プログラムを記録した請求項 1 0 記載の記録媒体。

【請求項 1 2】 前記スケジュール表および前記スケジュールの表示を制御するデータを他の処理手段で解釈可能なフォーマットのファイルに出力するステップを実行させる前記スケジュール表示制御プログラムを記録した請求項 9 乃至 1 1 のいずれかに記載の記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、予定表、T o D o リスト、住所録（連絡先）、電子メール等の複数種類の機能を備える P I M ソフト（P e r s o n a l I n f o r m a t i o n M a n a g e r）や P D A（P e r s o n a l D a t a A s s i s t a n t）などの個人情報管理装置、複数人でのグループ作業を管理するグループウェアソフトなどの作業管理装置などで利用されるスケジュールの表示制御装置、その装置における表示制御方法、並びにその表示制御をコンピュータに実行させるプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体に関する。特に、ユーザによりスケジュールが容易に把握されるよう該スケジュールを表示させる技術に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

図 1 は、従来の技術を説明する図であり、P I M の予定表機能によって表示装置の画面上にスケジュールを表示したものを示す。また、この図 1 は月間表示モードであって、1 9 9 9 年 3 月のスケジュールを表示した例を示したものである。

【0 0 0 3】

この図 1 に示すように、月間表示モードによるスケジュール表示においては、表示上部に表示すべきスケジュールの年月と 1 週間の各曜日が表示される。また、その下部には、マトリックス状の枠が表示されており、各日が該当する週番の行、かつ曜日の列の枠に表示される。

【0 0 0 4】

そして、スケジュールが設定されている日に該当する枠には、そのスケジュールの開始時刻と件名が表示される。このように、月間表示モードでは、日を表示単位としている。

【0005】

例えば、3月2日には、「9:00 会議1」、「14:00 会議2」、「17:00 会議3」が設定されており、それぞれの開始時刻と件名が3月2日の位置にあたる枠内に表示されている。その他のスケジュールが設定されている日に該当する枠内にも同様にそれぞれの開始時刻と件名が表示されている。

【0006】

また、終日のスケジュールや祝日など時間帯に関係ないスケジュールは特にイベントと称し、「3月5日の休み」のように反転表示にてそのイベントの件名が表示されている。

【0007】

さらに、設定された各スケジュールを枠内に表示しきれない日（例えば3月24日であって、図示しない「17:00 技術説明会」がスケジュールとして設定されているものとする。）については、表示内容を上下方向にスクロールさせることが可能なスクロールバーをその日の枠内に表示し、ユーザにそのスクロールバーを操作させることによって、枠内に表示されていないスケジュールを表示できるよう制御している。

【0008】

1スケジュールを1行に表示できない場合は、最終部分を「.」に置き換えて表示内容を省略して枠内に表示するよう制御し、それぞれ1スケジュールを1行に表示するようにしている。

【0009】

また、他の従来技術として、枠をマウ斯卡ーソルでクリックするなどフォーカスが当てられたとき、一時的に枠の表示領域を拡大することにより、その枠に対応する日のすべてのスケジュールが表示できるよう制御するものもある。

【0010】

設定されたスケジュールは、上記のように開始時刻と件名の表示ではなく、開

始時刻と終了時刻および件名の表示、または件名のみの表示など表示形態を選択することも可能である。

【 0 0 1 1 】

また、スケジュールの表示モードは本例の月間表示モードだけでなく、1週間分の各日のスケジュールを表示する週間表示モード、1日の各時間帯のスケジュールを表示する日表示モードがある。この週間表示モードおよび日表示モードでの表示単位は時間である。

【 0 0 1 2 】

【発明が解決しようとする課題】

上述のような従来技術においては、次のような問題点があった。

(1) スケジュールの把握が難しい。

【 0 0 1 3 】

上述のように、枠の表示領域内に個々のスケジュール内容がすべて表示されない、または登録された1日のスケジュールをすべて表示できないため、個々のスケジュールの把握、および1日全体のスケジュールを把握することが難しくなってしまう。また、ある日のスケジュールが把握できないため、月間のスケジュールも把握できなくなってしまう。つまり、全体的なスケジュールの把握が困難となってしまう。

(2) ユーザに負担がかかる。

【 0 0 1 4 】

上述のように、枠の表示領域内にスケジュールをすべて表示できないときは、スクロールバーを操作する、または、枠にフォーカスを当てるなどの操作が必要であり、ユーザに操作負担がかかっている。

(3) 無駄な表示領域が生じる。

【 0 0 1 5 】

図1のように、各日に相当する枠のサイズはそれぞれ同じになるよう固定となっているため、スケジュールが全く登録されていない週または曜日が存在すると、その週または曜日の表示領域は何もスケジュールが表示されずに無駄となってしまう、画面上の表示領域を無駄に使用してしまう。そのため、マルチウィンド

ウシステムにおける1つのウィンドウとしてスケジュール表を表示している場合には、該スケジュール表が他のアプリケーションソフトで使われているウィンドウと重なる、または重ならないようにそのウィンドウのサイズを縮小させなければならない、他のアプリケーションソフトによる作業の妨げとなってしまう。

(4) スケジュールの表示制御を共有できない。

【0016】

上述したPIMなどの個人情報管理装置ではスケジュールに関する内容のみをデータとして出力し、その出力データを他の個人情報管理装置で読み込んでスケジュールを表示することが可能である。しかし、この他の個人情報管理装置ではスケジュールの内容のみを再現できるものであって、データとしてスケジュールを出力した個人情報管理装置側でのスケジュール表示制御を再現することができない。

【0017】

以上の問題点に鑑み、本発明は、表示単位または全体的なスケジュールの容易な把握、ユーザの操作負担の軽減、円滑な作業、スケジュール表示制御の共有、のうちいずれか1つ、いくつかの組み合わせ、または全てを実現するスケジュールの表示制御装置、表示制御方法ならびにプログラムを格納したコンピュータ読取可能な記録媒体の提供を目的とする。

【0018】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するための手段を以下に示す。

【0019】

本発明では、各表示単位毎のスケジュール量に基づきスケジュール表のレイアウトを制御し、前記レイアウトのスケジュール表および該スケジュール表中の該当位置に対応するスケジュールの表示を制御するものである。

【0020】

また、本発明では、前記スケジュール表を行と列から構成し、前記スケジュール量に応じた各行および／または各列の幅となるよう前記スケジュール表のレイアウトを制御するものである。

【 0 0 2 1 】

また、本発明では、前記スケジュール量を各行または各列におけるスケジュールの最大件数および／または最大の表示領域を要するスケジュールの表示内容量とし、前記最大件数の各スケジュールおよび／または前記最大表示領域を要するスケジュールが表示されるよう前記スケジュール表のレイアウトを制御するものである。

【 0 0 2 2 】

また、本発明では、前記スケジュール表および前記スケジュールの表示を制御するデータを他の処理手段で解釈可能なフォーマットのファイルに出力するものである。

【 0 0 2 3 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を適用した個人情報管理装置を実施の形態として図面を用いて説明する。

【 0 0 2 4 】

図 2 は、本実施の形態である個人情報管理装置のハードウェア構成を示す図である。

【 0 0 2 5 】

本実施の形態である個人情報管理装置 1 のハードウェアはパーソナルコンピュータなど公知の一般的なハードウェアと同様の構成である。

【 0 0 2 6 】

つまり、各種の処理、制御を実行する CPU 1 0、起動時に装置の各種環境設定を実行するための BIOS などの制御プログラムが格納される ROM 1 1、処理の実行を行うためプログラムやデータが展開される RAM で構成される主記憶装置、オペレーティングシステムや各種アプリケーションプログラムおよびデータが格納される例えばハードディスクドライブ 1 3、フロッピーディスクドライブ 1 4、CD-ROM ドライブ 1 5 である補助記憶装置、遠隔のサーバまたはメールサーバへのアクセスに使用するネットワーク制御ボード 1 6 やモデム 1 7 などの通信制御装置、文字入力やポインティングデバイスとして機能するキーボー

ド 18 や マウス 19 などの入力装置、画面上に表示を行う表示装置 20 などで構成され、これらの構成要素は内部バスでデータの送受が可能なように接続されている。

【0027】

そして、補助記憶装置や通信制御装置を介して遠隔のサーバが管理する記憶装置から本発明のスケジュール表示制御プログラムが主記憶装置上に展開され、該プログラムの実行により CPU 10 を制御してこのハードウェアを個人情報管理装置 1 として動作させる。

【0028】

次に、この個人情報管理装置 1 によるスケジュールの表示制御について以下説明する。

【0029】

まず、各実施例により表示装置の画面上に表示されるスケジュール表について説明する。

(1) 本発明の第 1 の実施例

図 3 は本発明の第 1 の実施例を示す図であって、図 1 と同じスケジュール内容を表示したスケジュール表を示したものである。

【0030】

この図 3 に示すスケジュール表は、各週における最大のスケジュール件数に応じて各週にあたる表の行幅が制御されている点で図 1 の従来技術のスケジュール表と異なる。

【0031】

つまり、第 1 週目にあたる第 1 行は、3 件登録されている 3 月 2 日のスケジュールが全て表示されるよう行幅を制御している。

【0032】

また、第 2 週目にあたる第 2 行および第 3 週目にあたる第 3 行は、3 月 11 日、3 月 13 日、3 月 14 日に登録されているそれぞれ 1 件のスケジュールが表示されるよう行幅を制御している。

【0033】

さらに、第4週目にあたる第4行は、4件登録されている3月24日のスケジュールが全て表示されるよう行幅を制御している。ここで、図1の従来技術では3月24日にスケジュールとして登録されてあった「17:00 技術説明会」が表示されていなかったが、この図3では従来技術で説明した表示省略の処理によりこのスケジュールが省略された形で表示されている。

【0034】

従って、従来技術のように、ユーザはスクロールバーの操作やフォーカス設定の操作をする必要なく、1日のスケジュール全体を把握することが可能となっている。

【0035】

第5週目にあたる第5行は、第2, 3行と同様に3月29日の1件のスケジュールが表示されるよう行幅が制御されている。

【0036】

このように、各週にあたる各行は、それぞれ登録されているスケジュールの最大件数に応じて、その行幅が可変となっている。そのため、従来のように、登録されているスケジュール件数が少ない、またはスケジュールが全く登録されていない週にあたる行はその行幅が狭くなり、表示領域が有効に使用されている。

(2) 本発明の第2の実施例

図4は本発明の第2の実施例を示す図であって、図1と同じスケジュール内容を表示したスケジュール表を示したものである。

【0037】

この図4に示すスケジュール表は、各曜日においてスケジュール内容を表示する際に最大の表示領域を要する日にあたる表の列幅が制御されている点で図1の従来技術のスケジュール表と異なる。

【0038】

つまり、日曜日にあたる第1列は、3月21日のスケジュール内容である「春分の日」が全て表示されるよう列幅を制御している。

【0039】

また、その他の曜日にあたる各列についても同様に、月曜日にあたる第2列は3

月29日の「10:00 会議6」、火曜日にあたる第3列は3月2日の「14:00 会議2」または「17:00 会議3」のいずれか、水曜日にあたる第4列は3月24日の「13:00 報告会」、木曜日にあたる第5列は3月11日の「10:00 出張」、金曜日にあたる第6列は3月5日の「休み」、土曜日にあたる第7列は3月13日の「旅行」に応じて、それぞれのスケジュール内容が全て表示されるよう列幅が制御されている。

【0040】

このように、各曜日にあたる各列は、それぞれ登録されているスケジュール内容が全て表示され、かつ最小となるようその列幅が可変となっている。そのため、従来のように、表示しきれない文字を「.」に置き換えて省略した形でスケジュールが表示されることがなくなり、個々のスケジュールの内容が容易に把握できるようになる。また、スケジュールの最大表示内容が少ない（表示文字数が少ない）、またはスケジュールが全く登録されていない曜日にあたる列はその列幅が狭くなり、表示領域が有効に使用されている。

（3）本発明の第3の実施例

図5は本発明の第3の実施例を示す図であって、図1と同じスケジュール内容を表示したスケジュール表を示したものである。

【0041】

この図5に示すスケジュール表は、各週における最大のスケジュール件数に応じて各週にあたる表の行幅が制御され、かつ各曜日に於いてスケジュール内容を表示する際に最大の表示領域を要する日にあたる表の列幅が制御されている点で図1の従来技術のスケジュール表と異なる。

【0042】

つまり、本発明の第1の実施例によるスケジュール表の行幅制御と第2の実施例によるスケジュール表の列幅制御を組み合わせるスケジュール表の表示制御を行っているものである。

【0043】

スケジュール表の行幅および列幅の制御は、第1の実施例および第2の実施例で説明した制御内容の組み合わせであるため、第3の実施例に関する詳細な説明

は省略する。

【 0 0 4 4 】

この第 3 の実施例によるスケジュール表の表示制御による作用効果も第 1 の実施例および第 2 の実施例で説明した作用効果の組み合わせであるため、その説明は省略する。

【 0 0 4 5 】

以下に、上記スケジュール表示に用いられるスケジュールデータの構造を説明する。

【 0 0 4 6 】

図 6 はスケジュールデータのデータ構造を示す図である。

【 0 0 4 7 】

図 6 に示されるように、各スケジュールのスケジュールデータは、件名、開始日付、終了日付、開始時刻、終了時刻、作成日時のフィールドから構成される。なお、スケジュールデータのフィールドはこれらだけに限らず、アラームの設定 ON / OFF, アラーム時刻なども存在する。ここで、作成日時はこのスケジュールデータが作成された日時を示し、この作成日時順にスケジュールデータは補助記憶装置に格納されている。

【 0 0 4 8 】

例えば 1 9 9 9 年 3 月のスケジュール表示が指示されると、1 9 9 9 年 3 月 1 日から 3 月 3 1 日の期間内の開始日付を有する各スケジュールデータの格納アドレスを取得して、それら格納アドレスを開始日付、開始時刻、終了日付、終了時刻の順でソートしたインデックスデータを作成する。

【 0 0 4 9 】

そして、該インデックスデータを用いて該当する日付のスケジュールデータを補助記憶装置から読み出して主記憶装置上に展開し、スケジュール表と共にスケジュール内容を表示する。ここでは、単にインデックスデータとして処理を説明しているが、具体的な処理は後述の説明に従う。

【 0 0 5 0 】

上述したスケジュールデータを使用してスケジュールの表示制御を行う処理に

ついて、図7のフローチャートを用いて説明する。

【0051】

図7は本発明のスケジュール表示制御を説明するフローチャートを示す図である。

【0052】

この図7は月間表示モードでの処理フローチャートを示すものである。

【0053】

スケジュール表の表示が支持されると、まず、要素数5からなり週毎の表示幅を制御するための配列W(m)と要素数7からなり曜日毎の表示幅を制御するための配列D(n)を主記憶装置上に確保し、各値を初期化しておく。

【0054】

その後、ステップS100により、何週目かを示す変数mを1に設定する。

【0055】

次に、ステップS101により、第m週に関する週単位インデックスデータを作成する。この週単位インデックスデータは第m週の各日におけるスケジュールデータの格納アドレスを取得して上述のようにソートして作成するものである。

【0056】

第m週に関する週単位インデックスデータを作成した後、ステップS102により1週内の何日目かを示す変数(つまり、曜日を示す変数)nを1に設定し、ステップS103により第n日目に関する日単位インデックスデータを作成する。この日単位インデックスデータは第n日目におけるスケジュールデータの格納アドレスを取得して開始時間順にソートして作成するものである。

【0057】

上述の日単位インデックスデータの作成処理時に第n日目のスケジュール件数とスケジュール表示内容の最大文字数を保持しておき、ステップS104により現在の配列D(n)の保持値(文字数)とこの第n日目の最大文字数とを比較し、多い文字数を配列D(n)の新たな保持値として設定する。また、ステップS105により現在の配列W(m)の保持値(件数)とこの第n日目のスケジュール件数を比較し、多い件数を配列W(m)の新たな保持値として設定する。

【 0 0 5 8 】

第 7 日までステップ S 1 0 3, S 1 0 4 の処理を実行したかをステップ S 1 0 6 で判断し、変数 n が 7 以下であればステップ S 1 0 7 により変数 n に 1 を加算してステップ S 1 0 3, S 1 0 4 を実行する。

【 0 0 5 9 】

また、変数 n が 7 より大きければ、第 m 週まで処理を実行したかをステップ S 1 0 8 で判断し、変数 m が 5 以下であればステップ S 1 0 9 により変数 m に 1 を加算して上述の処理を繰り返し実行する。

【 0 0 6 0 】

ここで、変数 m が 5 より大きければ、各週毎にスケジュールの最大件数および各曜日毎にスケジュール表示内容の最大文字数が求められたので、ステップ S 1 1 0 により配列 W (m) および D (n) の各要素の値と、スケジュール内容を表示するために設定されている文字フォントサイズに基づいて各週の表示幅および各曜日の表示幅を求め、スケジュール表の枠とインデックスデータで示されるアドレスに格納されている各スケジュール内容を画面上に表示する。

【 0 0 6 1 】

以上説明した処理は、第 3 の実施例に対応した各週の表示幅および各曜日の表示幅をそれぞれ制御してスケジュール表を画面上に表示させるものであるが、各曜日の表示幅を制御する配列 D (n) の各要素値を固定にすることで第 1 の実施例を実現でき、また、各週の表示幅を制御する配列 W (m) の各要素値を固定にすることで第 2 の実施例を実現できる。

【 0 0 6 2 】

上述した処理は月間表示モードにおける各週と各曜日の表示幅を制御するものであるが、週間表示モードでの行にあたる各時刻と列にあたる各曜日、日表示モードにおける行にあたる各時刻と列にあたるその日（列数は 1 ）の場合にも、各表示モードに応じて行および列の要素数を変更し上述と同様の処理によってスケジュールの表示制御を実現できることは言うまでもない。

【 0 0 6 3 】

以上が本発明の実施形態である個人情報管理装置による処理にてスケジュール

の表示制御を行う例である。

【0064】

次に、この個人情報管理装置によって管理されているスケジュールデータをHTML文書として出力する例について説明する。この処理によって出力されたHTML文書をWWWブラウザなどでオープンすることにより、個人情報管理機能を持たない他の処理装置においても上述した表示制御がなされたスケジュール表を画面上に表示することが可能となる。(HTML: Hyper Text Markup Language)

HTML文書としてスケジュールデータを出力するための指示がされると、図8に示すような、出力するスケジュールデータの期間を指定するためのウィンドウを画面上に表示する。この例では、期間として年月しか指定できないが、出力すべき週数を指定させるなどさまざまな指定方法が考えられる。

【0065】

このウィンドウ上でユーザが出力すべき期間を指定すると、図9に示すフローチャートに基づき処理が実行される。

【0066】

図9はスケジュールデータをHTML文書として出力するためのフローチャートを示す図である。

【0067】

図8のウィンドウにてユーザが所望の年月を指定してOKボタンを指示すると、まず、HTMLの幅を設定する属性を定義した<TABLE>タグと共に、行を示す<TR>をファイルに記録し、つづいて列を示す<TD>と</TD>間に曜日を挿入してファイルに追記する。これにより、曜日の見出しがファイルに記録されることになる。

【0068】

次に、ステップS200により第何週目かを示す変数mを1に設定する。

【0069】

その後、ステップS201により、第m週に関する週単位インデックスデータを作成すると共に、行を示す<TR>タグをファイルに追記する。この週単位イ

ンデックスデータの作成方法は上述した図 7 のステップ S 1 0 1 と同じであるため説明を省略する。

【 0 0 7 0 】

次に、ステップ S 2 0 2 にて曜日（第何日目）を示す変数 n をそれぞれ 1 に設定する。

【 0 0 7 1 】

その後、ステップ S 2 0 3 にて第 n 日目の日単位インデックスデータを作成する。この日単位インデックスデータの作成方法も図 7 のステップ S 1 0 3 と同様であるため説明を省略する。

【 0 0 7 2 】

日単位インデックスデータを作成すると、ステップ S 2 0 4 により該インデックスデータで示されるアドレスから順次スケジュールデータを読み出し、＜TD＞と＜／TD＞で囲んだスケジュール内容を上記ファイルに追記する。その際に、複数のスケジュールデータが存在する場合には、段落タグ（＜P＞）をスケジュールデータ間に挿入して記録する。また、スケジュールデータがない場合には、単に＜TD＞と＜／TD＞をファイルに追記する。

【 0 0 7 3 】

第 7 日目までステップ S 2 0 3，S 2 0 4 の処理を実行したかをステップ S 2 0 5 で判断し、変数 n が 7 以下であればステップ S 2 0 6 により変数 n に 1 を加算してステップ S 2 0 3，S 2 0 4 を実行する。

【 0 0 7 4 】

また、変数 n が 7 より大きければ、第 m 週まで処理を実行したかをステップ S 2 0 7 で判断し、変数 m が 5 以下であればステップ S 2 0 8 により変数 m に 1 を加算して上述の処理を繰り返し実行する。

【 0 0 7 5 】

ここで、変数 m が 5 より大きければ、各週毎のスケジュールデータがファイルに記録されたので、ステップ S 2 0 9 により＜／TABLE＞を追記してファイルを所定のファイル名にて補助記憶装置に格納する。

【 0 0 7 6 】

以上により作成されたファイルをWWWブラウザでオープンすることにより、各週毎にスケジュール件数に応じた表示幅が設定されたスケジュール表を画面上に表示させることが可能となる。

【0077】

上述の説明では省略したが、HTML文書に出力したスケジュールの期間（年月）なども記録することにより、実施例で示した画面表示を実現できることは言うまでもない。

【0078】

従って、以上から個人情報管理機能を持たない処理装置にて該HTML文書ファイルをオープンさせることで、他の処理装置にスケジュールの表示制御を反映させることができる。

【0079】

【発明の効果】

以上のように、本発明によると、表示単位または全体的なスケジュールの容易な把握、ユーザの操作負担の軽減、円滑な作業、スケジュール表示制御の共有、のうちいずれか1つ、いくつかの組み合わせ、または全てを実現することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

従来の技術を示す図である。

【図2】

本実施の形態である個人情報管理装置のハードウェア構成を示す図である。

【図3】

本発明の第1の実施例を示す図である。

【図4】

本発明の第2の実施例を示す図である。

【図5】

本発明の第3の実施例を示す図である。

【図6】

スケジュールデータのデータ構造を示す図である。

【図 7】

本発明のスケジュール表示制御を説明するフローチャートを示す図である。

【図 8】

スケジュールデータを HTML 文書として出力するための指示画面を示す図である。

【図 9】

スケジュールデータを HTML 文書として出力するためのフローチャートを示す図である。

【符号の説明】

- 1 0 CPU
- 1 1 ROM
- 1 2 RAM
- 1 3 ハードディスクドライブ (HDD)
- 1 4 フロッピーディスクドライブ (FDD)
- 1 5 CD-ROMドライブ
- 1 6 ネットワーク制御ボー
- 1 7 モデム
- 1 8 キーボード
- 1 9 マウス
- 2 0 表示装置

【書類名】 図面

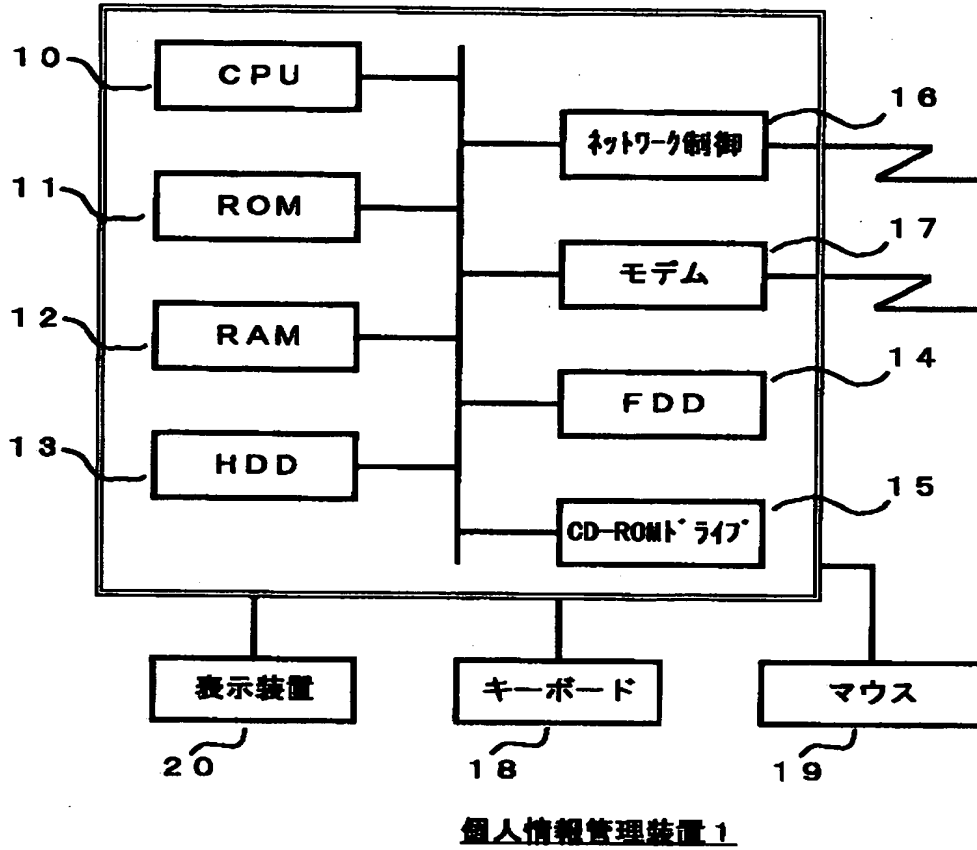
【図 1】

従来技術を示す図

1999年3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2 9:00 会議1 14:00 会議2 17:00 会議3	3	4	5 休み	6
7	8	9	10	11 10:00 出張	12	13 旅行
14 旅行	15	16	17	18	19	20
21 春分の日	22	23	24 9:00 会. 11:00 会. 13:00 報.	25	26	27
28	29 10:00 会議6	30	31			

【図 2】

本実施の形態の個人情報管理装置のハードウェア構成を示す図



【図 3】

本発明の第 1 の実施例を示す図

1999年3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2 9:00 会議1 14:00 会議2 17:00 会議3	3	4	5 休み	6
7	8	9	10	11 10:00 出張	12	13 旅行
14 旅行	15	16	17	18	19	20
21 春分の日	22	23	24 9:00 会議4 11:00 会議5 13:00 報告 17:00 技術	25	26	27
28	29 10:00 会議6	30	31			

【図 4】

本発明の第 2 の実施例を示す図

1999年3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2 9:00 会議1 14:00 会議2 17:00 会議3	3	4	5 休み	6
7	8	9	10	11 10:00 出張	12	13 旅行
14 旅行	15	16	17	18	19	20
21 春分の日	22	23	24 9:00 会議4 11:00 会議5 13:00 報告会	25	26	27
28	29 10:00 会議6	30	31			

【図 5】

本発明の第 3 の実施例を示す図

1999年3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2 9:00 会議1 14:00 会議2 17:00 会議3	3	4	5 休み	6
7	8	9	10	11 10:00 出張	12	13 旅行
14 旅行	15	16	17	18	19	20
21 春分の日	22	23	24 9:00 会議4 11:00 会議5 13:00 報告会 17:00 技術説明会	25	26	27
28	29 10:00 会議6	30	31			

【図 6】

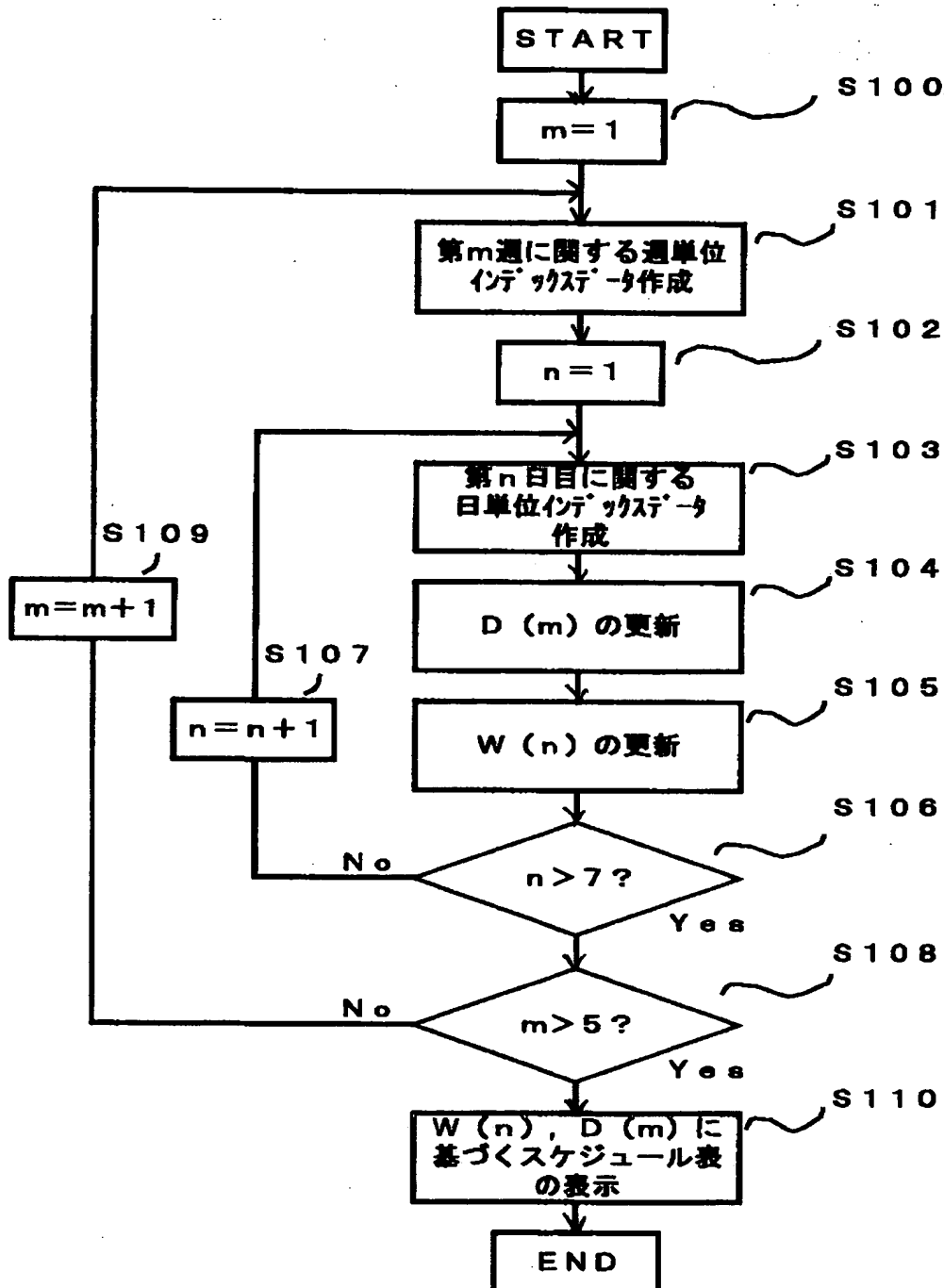
スケジュールデータのデータ構造を示す図

件名	開始日付	終了日付	開始時刻	終了時刻	作成日時
会議 1	1999/3/2	1999/3/2	9:00	12:00	1999/2/1 9:00a. m.
会議 3	1999/3/2	1999/3/2	9:00	12:00	1999/2/2 10:00a. m.
休み	1999/3/5	1999/3/5			1999/2/3 9:00a. m.
会議 2	1999/3/2	1999/3/2	9:00	12:00	1999/2/3 9:15a. m.
会議 4	1999/3/24	1999/3/24	9:00	10:00	1999/2/5 10:00a. m.

⋮
⋮

【図 7】

本発明のスケジュール表示制御を説明するフローチャートを示す図



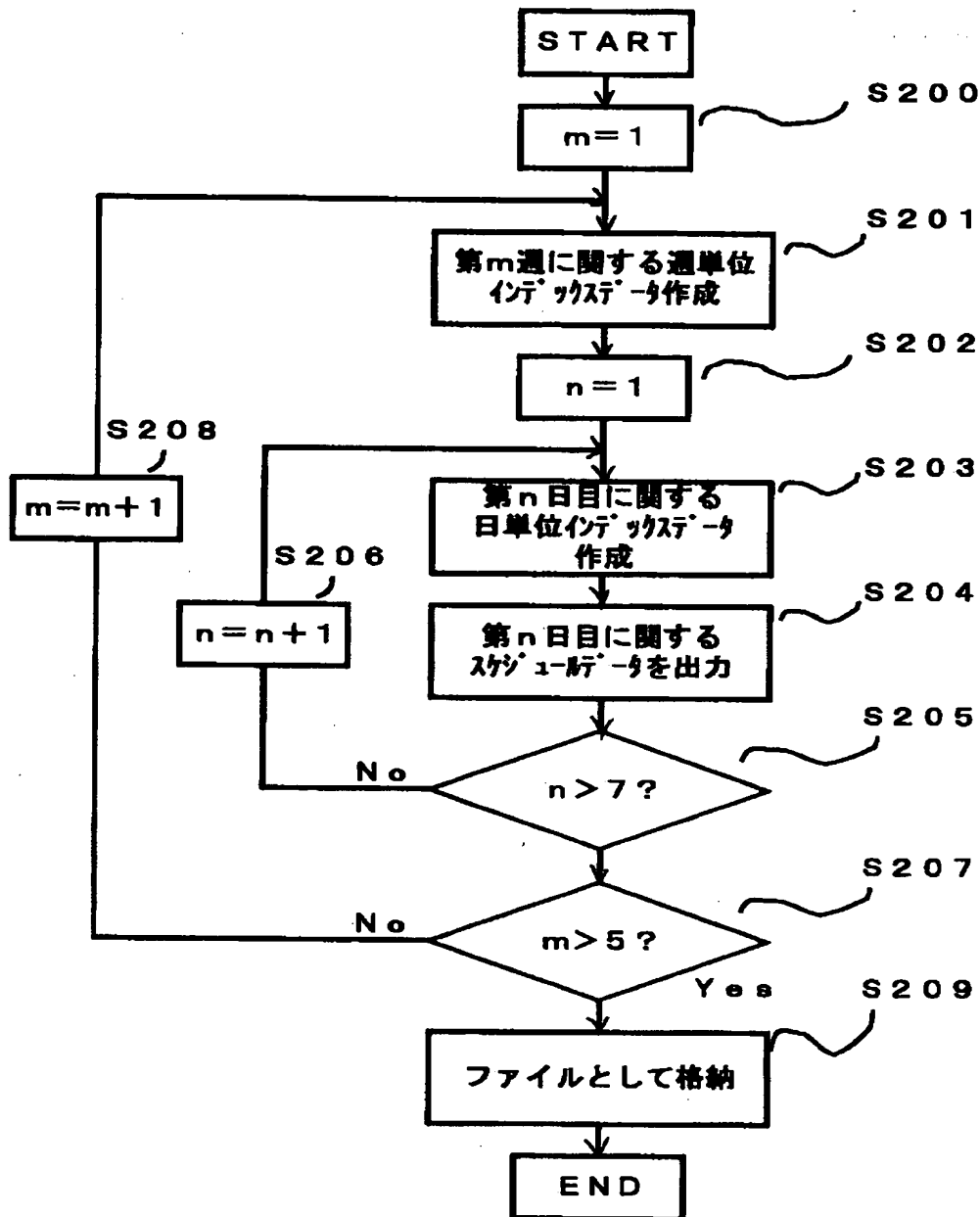
【図 8】

スケジュールデータをHTML文書として出力する
ための指示画面を示す図

出力するスケジュールの選択	
出力するスケジュールを指定して下さい。	
期間：	<input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月
<input type="button" value="OK"/>	<input type="button" value="キャンセル"/>

【図9】

スケジュールデータをHTML文書として出力するための
フローチャートを示す図



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明は、表示単位または全体的なスケジュールの容易な把握、ユーザの操作負担の軽減、円滑な作業、スケジュール表示制御の共有を実現するスケジュールの表示制御装置、表示制御方法ならびにプログラムを格納したコンピュータ読取可能な記録媒体の提供を目的とする。

【解決手段】 各表示単位毎のスケジュール量に基づきスケジュール表のレイアウトを制御するレイアウト制御手段と、前記レイアウトのスケジュール表および該スケジュール表中の該当位置に対応するスケジュールの表示を制御する表示制御手段とを備える。

【選択図】 図 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日	1996年 3月26日
[変更理由]	住所変更
住 所	神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号
氏 名	富士通株式会社